

希少カニ類 2 種の種子島と屋久島における初記録

永江万作¹・鈴木廣志²・藤田喜久³・組坂遵治²・上床雄史郎²¹ 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学研究所² 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部³ 〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 琉球大学教育センター・NPO 法人海の自然史研究所

■ はじめに

近年、南西諸島多良間島の潮上帯転石帯でヤエヤマヒメオカガニ *Epigrapsus politus*, ムラサキオカガニ *Gecarcoidea lalandii*, イワトビベンケイガニ *Metasesarma obesum* やヤシガニ *Birgus latro* の稚ガニなど希少種やその稚ガニの生息が確認されている(藤田・砂川, 2008). 種子島は鹿児島県本土からおおよそ 40 km 南東に位置し, 鹿児島県内では奄美大島, 屋久島に次いで 3 番目に大きい島である. 屋久島は鹿児島県本土からおおよそ 60 km 南に位置し, 県内では奄美大島に次ぐ規模を有している. 種子島, 屋久島の陸水域における甲殻類相に関する研究は比較的多くなされているが(Shokita, 1975, 1979; Suzuki et al., 1993; Suzuki et al., 2000), 潮上帯転石帯における調査研究はオカヤドカリ類を対象とした報告のみである(鹿児島県教育委員会, 1987).

著者らは, 2009 年夏季に種子島および屋久島全島の潮上帯転石帯を対象とした甲殻類生息調査を実施した. その結果, 種子島において沖縄県版レッドデータブック(沖縄県, 2005)で準絶滅危惧種(NT)に指定されているイワトビベンケイガニ *Metasesarma obesum* および環境省版レッドデータブック(環境省自然環境局野生生物課, 2006)で情報不足(DD), 沖縄県版レッドデータ

ブック(沖縄県, 2005)で準絶滅危惧種(NT)に指定されているヒメオカガニ *Epigrapsus notatus* の 2 種が採集された. さらに屋久島においてはイワトビベンケイガニ *Metasesarma obesum* が採集されたので, ここに報告する.

■ 材料と方法

調査は, 2009 年 8 月 26 日-30 日に種子島の崎漁港(Stn. T-1), 大崎漁港奥(Stn. T-2), 上古田下(Stn. T-3), 大崎(Stn. T-4), 寺之門西部の漁港(Stn. T-5), 大久保(Stn. T-6), 浦田海水浴場左岸(Stn. T-7), 浦田海水浴場右岸(Stn. T-8), 久保山(Stn. T-9), 白磐から南へ 1.5 km の海岸(Stn. T-10), 浜脇港左岸(Stn. T-11), カガマ瀬左岸(Stn. T-12), 軍場下(Stn. T-13), 田之脇(Stn. T-14), 鉄浜海岸(Stn. T-15), 犬城海岸(Stn. T-16), 中山海岸(Stn. T-17), 竹屋海岸(Stn. T-18), 女洲(Stn. T-19), 熊野漁港(Stn. T-20), 門倉崎近くの海岸(Stn. T-21), 門倉崎近くの海岸右岸(Stn. T-22), 下西目港右岸(Stn. T-23), 下西目港左岸(Stn. T-24), 小田(Stn. T-25), 砂坂(Stn. T-26), 上之城(Stn. T-27), 牧川(Stn. T-28), 深川南(Stn. T-29), 箱崎(Stn. T-30), 下石寺養殖場左岸(Stn. T-31), 住吉(Stn. T-32), 志和野北部(Stn. T-33), 志和野南部(Stn. T-34)の 34 地点の潮上帯転石帯で行った(図 1).

屋久島においては, 2009 年 9 月 1 日-4 日に田代海岸(Stn. Y-1), 枕状溶岩(Stn. Y-2), 安房野木場前(Stn. Y-3), 春田海岸(Stn. Y-4), 中橋下(Stn. Y-5), 麦生港右岸(Stn. Y-6), 宮浦中下(Stn. Y-7), 城之川河口(Stn. Y-8), ふれあいパーク下(Stn. Y-9), 女川河口(Stn. Y-10), 原漁港(Stn.

Nagae, M., H. Suzuki, Y. Fujita, J. Kumisaka and Y. Uwatoko. 2010. New records of two rare crabs in Tanegashima Island and Yakushima Island. *Nature of Kagoshima* 36: 19-22.

✉ HS: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: suzuki@fish.kagoshima-u.ac.jp).

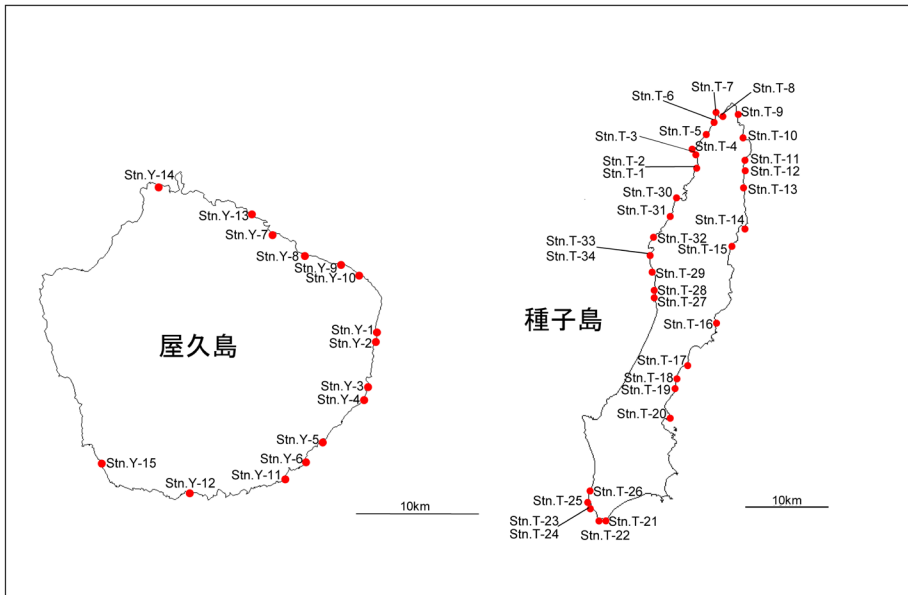


図1. 種子島と屋久島における調査地点.

Y-11), 平内 (Stn. Y-12), 深川 (Stn. Y-13), 大浦温泉東 (Stn. Y-14), 中間海水浴場 (Stn. Y-15) の15地点の潮上帯転石帯で行った (図1).

調査は, 10–20分の間転石の間や転石の下を無作為に探索した. 採集はすべて手取りで行った. なお, 本研究で報告したカニ類の標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に収蔵した.

■ 結果と考察

現在, 調査結果の解析を継続しているため, 本報告では種子島初記録となる2種と屋久島初記録となる1種を記載した.

オカガニ科 Gecarcinidae

ヒメオカガニ *Epigrapsus notatus* (Heller, 1865)

(図2. オス; 甲長 22.85 mm, 甲幅 26.5 mm, 標本登録番号 KAUM-AT-126, 採集者: 上床雄史郎)

本種は, 甲が横に広いまみのある四角で, 額甲幅の1/3に近くて, 広い方である. 前側縁には, 眼窩外歯の後方に, 痕跡的な1小歯がある. 甲面は, 平滑である. 頬域は, 短い毛でおおわれている. 口郭は幅が大きく, 外顎脚の外肢は髭を欠く. ハサミ脚は強大ではなく, 歩脚は各節やや

偏圧され, 第2, 第3対の基部の間には, 長い軟毛の房がある. 歩脚の指節は, きわめて細く, 先端は尖っている. 2009年8月28日と30日に種子島の門倉崎近くの海岸 (Stn. T-21, 図3) にて2個体採集された. 採集場所において, 底質の表面に微量の水の流れが見られた.

国外では台湾, ニコバル, スマトラ北部, サモア, およびハルマヘラ島などに分布しており, 国内では石垣島, 八丈島から記録されている (酒井, 1976; 沖縄県, 2005; Ng et al., 2000). 近年, 八重山諸島の与那国島と宮古諸島の宮古島でも確認された (藤田, 私信).

ベンケイガニ科 Sesarmidae

イワトビベンケイガニ *Metasesarma obesum* (Dana, 1851)

(図4. 種子島 オス; 甲長 11.25 mm, 甲幅 12.9 mm, 標本登録番号 KAUM-AT-127, 採集者: 組坂遵治) (屋久島 オス; 甲長 7.4 mm, 甲幅 8.15 mm, 標本登録番号 KAUM-AT-128, 採集者: 永江万作)

本種は, 甲幅 17 mm 未満の小型種で (本研究では甲幅 5.6 mm から 16.5 mm の個体が採集された), 甲の前縁は甲幅の1/2より大きく, 強く下垂し触覚域を覆う. 第2触角は眼窩の外に位置し,



図2. 種子島門倉崎近くの海岸で採集されたヒメオカガニ.



図3. 種子島門倉崎近くの海岸におけるヒメオカガニの採集地点.

甲の側縁はほぼ平行で歯を有しない。ハサミ脚掌節の表面はほぼ滑面を呈している。生息場所により色彩変異が見られる。2009年8月28日と29日に種子島の門倉崎近くの海岸 (Stn. T-21), 下石寺養殖場左岸 (Stn. T-31), 志和野南部 (Stn. T-34) において4個体採集された。また9月1日に屋久島の麦生港右岸 (Stn. Y-6, 図5) においても6個体採集された。

国外では、インドー太平洋に広く分布し、国内では、奄美大島、沖縄諸島の沖縄島、久米島、宮古諸島の宮古島、多良間諸島の多良間島、八重山諸島の石垣島、黒島、西表島、与那国島から報告されている (Komai et al., 2004; Osawa & Fujita, 2005; 沖縄県, 2005; 鈴木ほか, 2008)。

以上のように、今回報告した2種は種子島および屋久島において初記録の種であった。今までその生息が確認されなかったのは、これら2種が



図4. 種子島門倉崎近くの海岸で採集されたイワトビベンケイガニ.



図5. 屋久島の麦生港右岸におけるイワトビベンケイガニの採集地点.

潮上帯の転石帯に依存して生息しているため、従来の調査が潮上帯で十分なされなかったことに由来すると考えられる。また、潮上帯の転石帯が護岸や海岸道路の建設により消失すれば、これら2種が絶滅に瀕する可能性が高くなるので、今後この地域へのかかわり方には十分な配慮が必要と思われる。

■ 謝辞

本研究を行うにあたり、採集の協力を頂いた鹿児島大学水産学部鈴木研究室の学生諸氏に御礼申し上げます。

■ 引用文献

- 藤田喜久・砂川博秋, 2008. 多良間島の洞穴性および陸性十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要, 12: 53–80.
- 鹿児島県教育委員会, 1987. 鹿児島県のオカヤドカリ属一息実態緊急調査報告書一. 64 pp., 鹿児島県教育委員会, 鹿児島市.
- 環境省自然環境局野生生物課編, 2006. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—クモ形類・甲殻類等, 財団法人自然環境研究センター, 86 pp.
- Komai, T., Nagai, T., Yogi, A., Naruse, T., Fujita, Y., & Shokita, S., 2004. New records of four grapsoid crabs (Crustacea: Decapoda: Brachyura) from Japan, with notes on four rare species. *Natural History Research*, 8 (1): 33–63.
- Ng, P. K. L., Nakasone, Y., & Kosuge, T., 2000. Presence of the land crab, *Epigrapsus politus* Heller (Decapoda, Brachyura, Gecarcinidae) in Japan and Christmas Island, with a key to the Japanese Gecarcinidae. *Crustaceana*, 73: 379–381.
- 沖縄県編, 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) レッドデータおきなわ, 沖縄県, 561 pp.
- Osawa, M., & Fujita, Y., 2005. *Epigrapsus politus* Heller, 1862 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae) from Okinawa Island, the Ryukyu Islands, with note on its habitat. *Biological Magazine, Okinawa*, 43: 59–63.
- 酒井 恒, 1976. 日本産蟹類, 講談社, 東京, 461 pp.
- 鈴木廣志・藤田喜久・組坂遵治・永江万作・松岡卓司, 2008. 希少カニ類3種の奄美大島における初記録. *CANCER*, 17: 5–7.
- Suzuki, H. and Okano, T., 2000. A new freshwater crab of the genus *Geothelphusa* Stimpson, 1858 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Potamidae) from Yakushima Island, southern Kyushu, Japan, *Proceedings of the Biological Society of Washington*, 113: 30–38.
- Suzuki, H., N. Tanigawa, T. Nagatomo, and E. Tsuda., 1993. Distribution of freshwater caridean shrimps and prawns (Atyidae and Palaemonidae) from southern Kyushu and adjacent islands, Kagoshima Prefecture, Japan. *Crustacean Research*, 22: 55–64.
- 諸喜田茂充, 1975. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—I, 琉球大学理工学部紀要, 18: 115–136.
- 諸喜田茂充, 1979. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—II, 琉球大学理工学部紀要, 28: 193–278.